子どもたちの生活

明かりが漏れないように気をつけた夜

大野武昭さんのお話から

私は昭和七（一九三二）年に江別市で生まれ、その後、小樽市に引っ越し、若竹小学校に入学しました。グラウンドの縁が崖になっていて、そこに立つと港が全部見えました。貨物船、軍艦、水雷艇、駆逐艦などが港にたくさん泊まっていました。図画の時間は港にある船を描いた覚えがあります。工作は、紙で飛行機や戦車を作りました。また、学校の帰りに保健室へ行くと、保健婦の先生はみんなが栄養失調にならないようにと肝油を口の中にひょいと入れ、その後あめ玉を食べさせてくれました。

四年生のころは戦争の最中で、農家で働いている若い青年も戦地に行きました。国から赤紙で召集令状というものが来ると、何月何日と決められた日までに行かなければなりません。どこのだれが出征するそうだ、何時の汽車だということが村中に伝わると、みんなが駅に行って、元気で行ってきてくださいと出征軍人を励ましてあげました。私が五・六年生のころは、一日置きくらいに青年が兵隊として出征して行きました。

そして、出征軍人の家では働き手がいなくなったので、みんなで手伝いに行きました。

五年生のころ、家に電気がつきました。うれしくて明るくしたかったのですが、そうすると空襲を受けるかもしれないので、明かりが外に漏れないように電気に黒い覆いをして、下だけを明るくして光が外に行かないようにしました。ランプを使っている人たちも、光が外に行かないようにしました。また、マッチを擦ったたばこの火なども空から丸見えだということで、みんな明かりがなるべく外に漏れないようにして生活していました。これを灯火管制と言いま

○軍艦　海軍の艦艇で、戦闘力をもつもの。戦艦・巡洋艦・航空母艦・潜水母艦・水上機母艦・砲艦などをいう。
○水雷艇　多量の爆薬を強固な容器内に充填し、水中で爆発させて敵艦を破壊する装置の兵器を水雷といい、それを持つ船。
○駆逐艦　砲・魚雷などを主要兵器とし、敵の主力艦・潜水艦・航空機を撃破するのを任務とする小型の快速艇。
○肝油　主としてタラなど魚類の肝臓より抽出され、不飽和度の高い脂肪を主成分とする油。ビタミンA・Dを多量に含む。
○召集令状　人を軍に呼

び集める命令書。あわい赤色の紙を用いたので「赤紙」という。
○出征　軍隊の一員として戦地に行くこと。

した。

食べ物は、米の配給がなくなって、芋や南瓜、トウモロコシ、大豆などでした。学校へ持っていく弁当は、半分は芋、半分は南瓜でした。

学校で使う教科書も戦争中はだんだんとなくなってきたので、上級生のお古や、兄さん、姉さんが使った教科書を使いました。鉛筆や消しゴムなどはありましたが、ノートは、書いたものを消すとすぐに穴が開くような紙でした。中学校に行ったときに教科書だと言われてもらったものは、大きな新聞紙のようなものを折りたたんで本にしたものでした。

戦争中の汽車は、海側の窓はすべてよろい戸を下ろしていました。海が見えると、軍艦が何隻あるかが分かります。スパイがいるから窓は閉めなさいということで、海を見ることはできませんでした。

中学校では、学校に兵隊が寝泊まりするよ

イメージ図

灯火管制

○勤労奉仕　勤労動員のこと。おもに軍需産業の労働不足が深刻化したために強制的に労働力として動員した。対象は学卒者、農家をはじめ、未婚の女性や学生、生徒、なかば強引に連れてこられた朝鮮人、中国人まで拡大した。

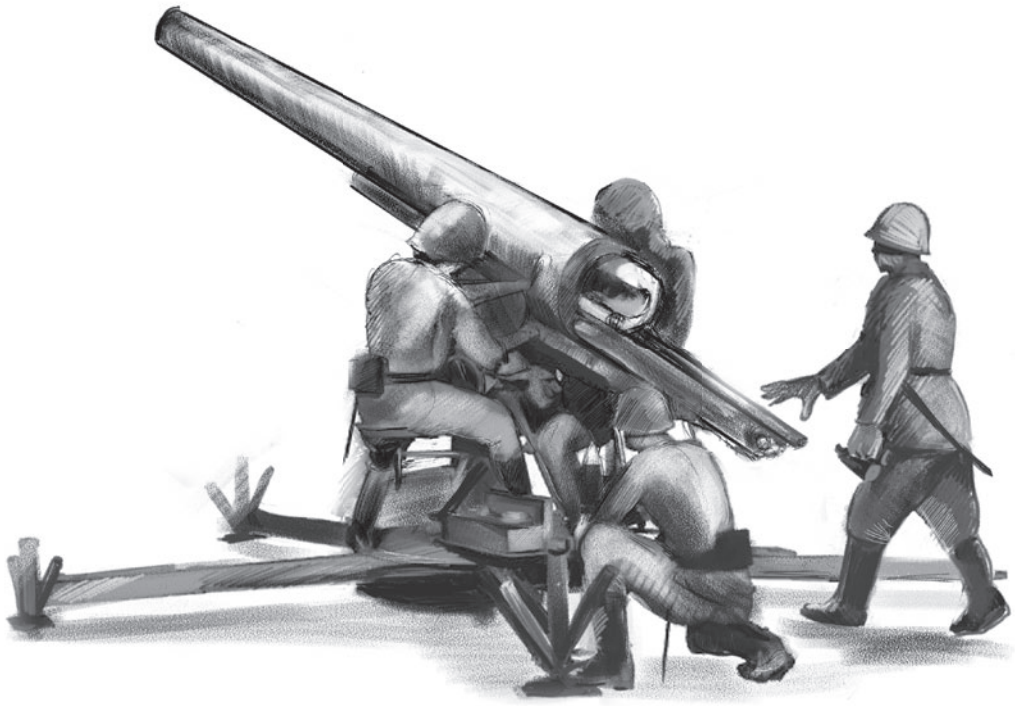
○援農　日本全国で十二才から十五才の中学生が働き手の男性が戦場に行って手薄になった農村に働きに行ったこと。

○空襲　航空機から機関砲・爆弾・焼夷弾・ミサイルなどで地上目標を襲撃すること。

○爆撃機　爆弾などを搭載して爆撃を行うための

うになりました。教室は兵隊たちが生活していますから入れません。私たちは、朝グラウンドに並んで、校長先生にごあいさつをしてお話を聞き、その後どこかの家へ手伝いに行きました。これを勤労奉仕といいます。一年生から三年生までは、援農ということで農家へ手伝いに行きました。四年生は、軍需工場という戦争に関係する工場に行きました。

七月十五日、十時ぐらいに空襲警報のサイレンが鳴り、海から爆音が聞こえてきてきました。みんな隠れろということで、リンゴの木の下や花の下に隠れて、空を見上げていました。そうすると、海の方から三機の爆撃機がやってきて、水産試験場のあたりに爆弾を落としました。爆弾がきらきらと光って落ちてくるのが見えました。そのうち、爆音がしました。水産試験場から少し離れたところに爆弾が落ちたのです。後で見に行くと、道路にトラックが一台入るくらいの大きな穴があいていました。日本も負けずに高射砲を撃ち



イメージ図

高射砲

航空機。
○高射砲　飛行機を射撃するのに用いる陸軍の火砲。
○機関銃　引き金を引いている間、弾丸が自動的に連続して発射される銃。
○防空壕　航空機による空からの攻撃から身を守るためにつくった穴や地下室。

ましたが、飛行機の下の方で破裂して、飛行機まで届きませんでした。

歩いていた人は、戦闘機から機関銃をだだだっと撃たれて、恐ろしくて大変だったそうです。当たってけがをした人もいました。

私たちは援農に出ていましたが、時々は学校に戻されました。戻って何をするかというと、中学校のグラウンドの松の根元に、自分の肩が隠れる、しゃがんだら頭も隠れるぐらいの穴を掘って防空壕にしました。空襲警報が鳴ると、その穴に入りました。

そして八月十五日になりました。みんなは頭を下げて、天皇陛下のお言葉をじっと聞いていました。日本の国は戦争に負けたのだ、これからはみんなで力を合わせてがんばろうというようなお話であったと思います。ラジオを聞いていた大人たちは、日本が勝つと思ったのに負けてこれからどうなるのだろうとか、負けて残念だけれども戦争が終わってよかったとか、いろいろなことを考えていました。

そして、戦争が終わったら世の中のすべてがよくなるかと思いましたが、生活はだんだん苦しくなったのでした。

DATA

平成23年度手稲区平和事業
聞き取り
・平成23年11月9日
・新陽小学校

大野武昭（おおの・たけあき）さん
・昭和7（1932）年生まれ
・札幌市手稲区在住